

蓮昌寺と“みそきん”の話

1 蓮昌寺

岡山の蓮昌寺と言えば、西国第一のお寺として昔から有名である。日蓮宗のこのお寺は、かの大僧正(注1)が布教のため岡山へ来られた当時、この地方を治めていた松田氏(宇喜多直家との説もある)の援助により、いまからおよそ660年ほど前の正慶年間(1332-1333)に創建されたと言われている。その敷地に建立されていた壮大な堂宇も戦災で丸焼けになり、現在は、田町1丁目へ鉄筋コンクリート造りの本堂が再建されているが、往時の姿はもはや見られない。

注1 大覚大僧正(1297-1363)は、日蓮宗京都妙顕寺の住職(妙顕寺を開基とれた日像上人の後継者)で備前・備中に始めて日蓮法華宗を布教された。

2 泣く子もだまる“みそきん”さん

この蓮昌寺に“みそきん”という乞食が住んでいたそうで、私が幼児の頃(70年以上前)、泣いたりやだをこねていると、よく親から「泣きょうとみそきんが来るぞ」とおどかされたものである。しかし、実際は見たことはなかった。ただ一度だけ「みそきんがきょうぞ」と言われ、家の裏口からおそろおそろ覗いてみると、ボロボロの着物をつけた年寄りが杖をついてこっちへ来るのが見えるのである。私は怖くて表へも出られなかった記憶がかすかに残っている。もちろん顔などは覚えてもいない。(注2)そして、いつとはなしに“みそきん”のことは、誰からも言われなくなってしまった。

注2 私と同年配の中仙道の小野田 弘さんも“みそきん”のことは聞いておられるそうだから、当時は、この近郷でもよく知られていたと思う。

3 郷土史家「岡 長平」さんの本でみる“味噌金”の話

私がこの記事を書くのについて、有名な“みそきん”のことだ、誰か、彼のことを書いているかも知れない。それなら、岡 長平さん以外になかろうと、調べてみると見つかった。「ぼっこう横丁」という本である。つぎの枠内の話が、岡 長平さんの語る“みそきん”である。(一部省略)

…… 人権を捨てて、自恣に生きる流浪自然人に、味噌金と呼ばれるのが蓮昌寺の門のあたりに住んでいた。もの言わずの、阿呆のような様子をして、将棋がぼっこう強いので誰も舌を捲いとった。正業は柳川筋の花万(葬式屋)の花持ちで白い衣装を着せられて行列に従ってぶらぶらついて行きようた。……

味噌金が死んだので懷中を調べたら、どえらい銭を持とったので、靈柩車で賑や

かに火葬場へ送ってもらった。“死んで、初めて自動車に乗ったのは、味噌金ぐらいのもんじゃろう……”と、世上の噂になったもんだ。残金は、なんぼあったか忘れたが、蓮昌寺へ永代供養金として奉納した。住持の高見慈悦は、毎年、将棋仲間を集めて、善哉を供えて、将棋大会を催し、味噌金の冥福を祈ってた。

（備考、霊柩車は、岡山市では、大正6年の春頃から使われるようになったそうだ。……
吉岡三平編「岡山事物起源」による）

4 もう一度、親に聞いてみたい“みそきん”さんのこと

「聞くと見るとは大違い」という言葉があるが、“みそきん”に対する私のこどものときのイメージと、事実とは大違いである。びっくりする。岡 長平さんも、いくらか美化して書かれたかも知れないが、とにかく、悪いイメージばかりもっていた私は、“みそきん”さんにあやまらねばならないようだ。そして、こどものしつけには役立っていたんですよと、親に代わって感謝しなければならないのかも……。

また、私が見たという乞食の“みそきん”さんは、夢であつたのであろうか。

なお、どちらでもよいことかも知れないが、味噌金の名前の由来も知りたかったが、岡長平さんは、それにはふれていない

平成6年7月号 第31号
（ 中 尾 佐之吉 ）